

第十一号

2012年1月1日発行

JABLAS NEWS

目次

2012年 年頭ご挨拶 1

JAB 試験所協議会 会長 井須雄一郎

2012年 年頭ご挨拶 2

公益財団法人 日本適合性認定協会
常務理事 認定センター長 久保 真

会員の声

「放射能測定の実験室を取得して」 3

財団法人 日本冷凍食品検査協会
品質保証本部 理事 岩沼 幸一郎

「JIS Q 17025 (ISO/IEC 17025) 認定に際しての思い出」 5

岡山県生コンクリート工業組合
専務理事 寺石 文雄

活動報告 7

今後の予定 9

事務局だより 11

JAB 試験所協議会
JAB Laboratories Association

2012年 年頭ご挨拶

JAB試験所協議会 会長 井須雄一郎

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には、ご家族ともども清々しい新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災及びその直後に発生した福島原子力発電所事故対応に明け暮れたといっても過言ではありません。

会員の皆様の中には、大きな被害に遭われたところもあり、改めて心からお見舞いと一日も早い復旧をご祈念申し上げます。

さて、JABLASは発足3年目に入っておりますが、従来から継続実施している専門部会・セミナー・相談コーナーに加えて、今年度は試験所見学会や試験所経営に関する勉強会、外部団体との共同アンケート調査等、新しい活動分野が広がり、皆様方から好評をいただいております。

昨今、食の安全・安心や放射能測定への信頼性等、試験所の役割は益々重要になってきました。JABLASは、日本をはじめ世界各国の国民が安心して暮らせるために、試験所が信頼性の高い試験データを提供できるように活動を展開していきたいと考えております。

このため、JABLAS設立の原点に立ち戻り、改めて会員各位からJABLAS活動の方向性について、ご意見をお伺いすることとしました。ご多忙中とは存じますが、是非忌憚のないご意見をお寄せいただくようお願いいたします。

会員数は、2011年12月末現在で、機関106件、個人97件、合計203件となっております。1年前に比べると、機関会員は7件増、個人会員は6件減で、合計では1件増と、ほとんど増えておりません。

日本の試験所、校正機関、臨床検査室、検査機関の一層のレベルアップと、試験所認定制度が任意分野にとどまらず、強制分野でも広く活用されるようにするためにも、JABLASの活動をより大きな力にする必要があり、このためには、会員数の大幅な拡大が必須です。

事務局としては、会員数を増やすための活動をより強力に展開していく所存ですが、会員の皆様におかれましては、新規会員候補の紹介等、絶大なるご協力をお願い申し上げます。

末尾になりましたが、本年もJABLASへの変わらぬご理解とご支援を賜ります様、重ねてお願い申し上げますとともに、会員各位の益々のご繁栄とご多幸をご祈念申し上げて、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上

2012年 年頭ご挨拶



公益財団法人 日本適合性認定協会
常務理事・認定センター長 久保 真

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、穏やか中でも新たな決意の下で、新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年は、東日本大震災という未曾有のつらく悲しい出来事がありました。被災された会員及び関係者の方々には心よりお見舞い申し上げます。

このたびの震災、特に原子力発電所事故に伴う放射能の問題によって、安全・安心な環境・社会の実現を望む声が、従来に増して強まったと言えます。JABは、こうした社会の要請に貢献するため、昨年7月、放射線分野の試験所認定を開始しました。既に4機関が認定されており、今後その数はさらに増える予定です。

このように、試験所認定制度は、商取引への活用だけではなく、安全・安心な信頼社会を支える社会ツールとして、今後より一層活用されるべきものであります。JABとしては、行政や産業界などに働きかけ、この制度の意義やメリットを説明し、制度利用の拡大を従来以上に強力に推進していきたいと考えております。

また認定審査においては、昨年、複数分野の統合審査を開始し、より広い範囲で認定されやすい環境作りを行いました。今後も機関各位の立場にたった認定サービスの向上に努めていく所存です。JABLAS 会員の方々には、JAB の活動への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて JABLAS は、試験所、校正機関、臨床検査室、検査機関で構成される国内でも数少ない団体であります。会員各位の試験・検査技術のレベルアップは勿論のこと、機関運営やその他認定対象に限らない様々な課題についても、情報共有や意見交流の場としてご活用できるものと思えます。より多くの会員が積極的に活動に参加されることにより、そのメリットを享受されることを期待しております。

最後になりますが、この一年が、JABLAS 及び会員各位のご発展の年となるよう心よりお祈り申し上げます。

以上

会員の声（その1）

「食品に関する放射能測定試験所における認定の利用について」



財団法人 日本冷凍食品検査協会
品質保証本部 理事 岩沼 幸一郎

1. はじめに

当会は昭和24年に、日本から輸出される水産物の品質検査をする目的で設立された財団法人で、輸出検査法に則り平成8年の法律廃止まで、輸出水産物の品質の維持、向上に勤めてきました。その間、法に則る検査は官能検査によるものでしたが、輸出先各国よりの微生物検査、理化学検査に基づく衛生証明書の発行要請に応えるため、試験業務を拡充してきました。

その結果、現在は

2国間協定に基づく輸出検査及び衛生証明書の発行（中国、ロシアなど6カ国）
（社）日本冷凍食品協会委託による冷凍食品の品質、衛生面の検査、指導
食品衛生法に基づく登録検査機関
一般依頼分析

などを主な業務として行っています。

名称が冷凍食品検査となっていますが、冷凍食品検査の割合は少なく、全ての食品、飼料、環境関連物質等を対象とした分析が主流となっています。当会の出す証明書は世界各国に流通することがあるため、国際標準規格に適合することが望ましく、そのため輸出検査、冷凍食品検査において国内初の検査機関認定国際規格 ISO/IEC 17020 を取得し、各種分析において試験所認定規格 ISO/IEC 17025 を取得しています。また、本年7月には放射能測定に関し JAB における ISO/IEC 17025 国内第1号認定を取得しました。

2. 放射能測定への対応

本年3月11日の福島原発事故は、戦後の日本における初の大規模食品、環境汚染となりました。この影響は大きく、日本における消費だけでなく、海外に輸出される食品にも影響を及ぼしており、現在43の国、地域が日本からの輸入食品に関し、何らかの放射能に関する規制を実施しています。

日本で今日まで食品の放射能汚染が問題になったのは、1979年の第5福竜丸事件、そして次に1986年のチェルノブイリ原発による東欧、北欧諸国からの輸入食品の放射能汚染でしょう。第5福竜丸事件以降、アメリカ、香港等は日本から輸出されるマグロ類について放射能試験結果証明書の添付を求め、現在も当会で対応を続けています。また、チェルノブイリ事故では、日本の輸入食品放射能基準である370 Bq/kgを超える輸入食品が度々見つかかり、輸入の水際でブロックされましたが、以降20年以上に渡り試験が続けられ当会もその試験の一翼を担

いました。福島原発による食品及び環境の放射能試験も同じように今後長期に亘り続けられる事が予想されます。

当会は福島原発事故に際して、5月から本格的に試験を開始し、現在4台のGe-半導体検出器、1台のNaIシンチレーションスペクトロメーターを用い試験を実施しており、10月末までに約16,000検体の分析を実施しました。

3. 試験・検査（放射能測定）のポリシー

当会は輸出水産物、輸入食品試験・検査を主体に行っており、当会の発行する証明書は全世界に流通し、その試験・検査結果は時には大きな貿易上の問題に発展する可能性があります。従って、当会の出す証明書は世界中ですんなり受け入れられることが必要であることから、国際的な健康被害に結びつく可能性、海外における風評被害の払拭、日本の輸出回復のため信頼されるものでなければなりません。そのような状況の下、当会では放射能試験において試験を実施する2事業所にてISO/IEC 17025の取得を決定しました。

4. ISO/IEC 17025 取得のメリット

認定取得による効果は対外的、対内的効果として以下の点を挙げる事が出来ます。

(1) 対外的効果

精度管理をしっかりと実施することができ、分析結果の信頼性、技術力を客観的に証明することが出来た。

社会的要請、重要度の高い分析において当会の社会的貢献をアピールすることが出来た。

入札条件としてISO/IEC 17025の認定取得が条件というものがあり対応出来た。

依頼者、特に大手メーカーより認定マーク付報告書を求められた。

海外食品メーカーより測定内容についての問い合わせが無くなった。

(2) 対内的効果

試験法導入時に計画的に標準体積線源、認証標準物質を入手し、しっかりしたバリデーション、ベリフィケーションを実施し、また異常値対策も立てた後、自信を持って測定を開始出来た。

既に認定を取得している部門以外の数多くの職員が、新たに試験要員として測定に関与することとなり、ISO/IEC 17025の技術・精度管理に対する意識の水平展開に繋がった。

既に他部門において認定を取得していたので、新規項目の認定申請をスムーズに実施することが出来た。

5. 今後の課題

(1) ISO/IEC 17025の更なる認知度の向上

放射能測定において一部大手企業から認定シンボル付報告書の要請があったものの、輸出企業を含むほとんどの依頼者からは要請がなかった。但し、こちらから説明すると、ほとんどは認定シンボル付報告書を希望したことから、まだまだ国内、国外でISO/IEC 17025の認知度が不足しているものと考えられる。今後JABを始めとして、認定取得企業が積極的にその有効性をアピールすることが必要と考えられる。

(2) 認定範囲の拡大

社会的要請の高い試験項目への更なる認定範囲の拡大が必要。

以上

会員の声（その2）

「JIS Q 17025（ISO/IEC 17025）認定に際しての思い出」



岡山県生コンクリート工業組合
専務理事 寺石 文雄

最初に試験所認定（その当時はISO/IECガイド25）に出くわしたのは、もう既に一昔以上前の1998年で、全国生コンクリート工業組合連合会主催の共同試験場 場長会議であったと記憶している。（財）日本適合性認定協会から青柳氏を招聘し、この制度について聴講させてもらった。

それによると、認定を取得することで試験場の地位は上がり、公的機関より上の試験場となる旨の話を聞いた。その当時は公的機関より我々の試験場は、相当下位の試験場に位置づけられており、夢のような話だと興味を持ったことが思い出される。しかし、数時間の講義の中で記憶に留める事のできたのは、「公的機関より上位の試験場になる」この一点のみが頭に残り、他の多くの説明は日本語でありながら、外国語を聞くように理解はできなかった。

その後、1999年に全国生コンクリート工業組合連合会 中央技術研究所が認定を取得し、その所長であった鈴木氏に進められて、前職場の試験場で認定を取得しようと画策を立て、予算を何とか工面するため、5月開催の総会の場で、理事長にお酒が入り、気が大きくなるのを待って話を切り出した。まだ多くの方が試験所認定制度なんて分からない時期だったので、当然理事長も分かる訳も無く、有耶無耶の中での了解を取り付けた。

しかし、6月から認定取得に取り掛かったものの、私と女性の二人だけの田舎の小さな試験場であったので、幾つかの問題が発生した。先ず、内部監査員を誰がやるか？（人員の件）

この件に関しては、他の試験場の職員にISO 9000の内部監査員養成教室（この時期には17025の内部監査員の養成教室は開催されていなかった）に行き行って貰って解決した。が、もっと大事な規格要求事項は、日本語でありながらその内容はチンプンカンプン？（理解度の件）

そこで、私がISO 9000の内部監査員養成教室及び同審査員補養成教室に参加した。このことにより、4章については少し理解できたが、5章の「トレーサビリティ」と「不確かさ」とには、全く歯が立たない状況で、今ならインターネットで「不確かさ」を検索すると、どれを見れば良いか迷うほどの多くの検案件数があるが、当時は「該当する言葉はありません」と表示される時代であった。JABに質問すると「コンサルできない」と言うことで「測定の結果に附随した、合理的に測定量に結び付けられ得る値のばらつきを特徴づけるパラメータ」と言う回答を得、これなら聞かない方が良かったと思ったことでした。

ちなみに、誤差が真の値からの測定値のずれを示すものであるのに対し、「不確かさ」は、測定値からどの程度のばらつきの範囲内に真の値があるかを示すものである。そもそも誤差を定量的に表現するのは不可能であるので（真の値を測定しようとするれば必ず誤差が生じるため）確率的に表現することで定量化しようとしたのが「不確かさ」であると。しかし、言葉は分かっても実際に不確かさを算出するには、今でもなかなか大変な作業が発生することを痛感している。

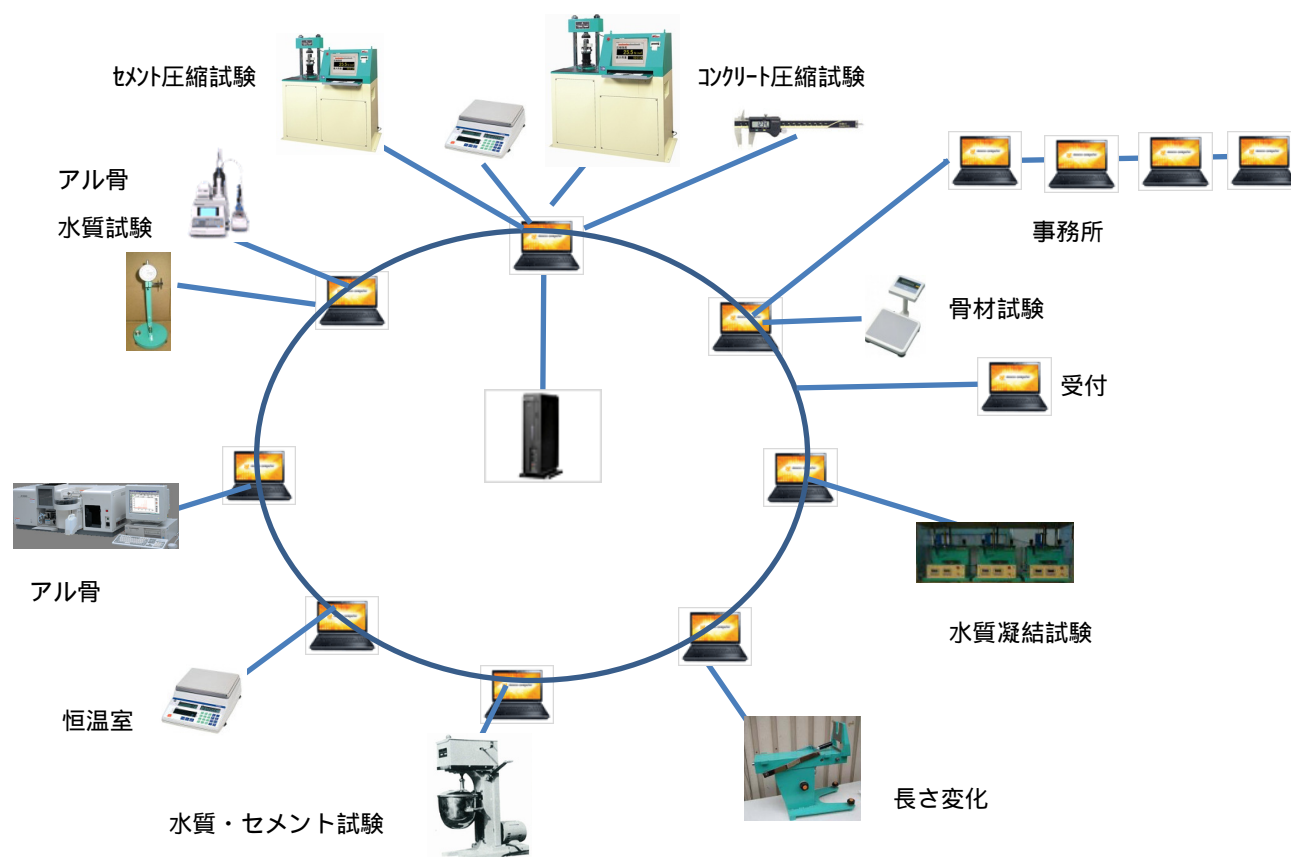
「不確かさ」は、様々な不確かさの成分を、標準偏差の計算（Aタイプ評価）もしくはデータ以外の様々な情報による、標準偏差に相当する大きさの推定（Bタイプ評価）のどちらかで計算し、それらを合成することで求めるとしている。「様々な不確かさの成分」には、試験者が知り得る限りのあらゆる成分を入れる必要がある。不確かさの質は、試験者の測定対象に関する知識や、測定に対する誠実さに左右されることになる。

また、「トレーサビリティ」では、実際の測定機器より、校正証明書の紙切れが高い値段だったことをその時の感想として、試験所認定には無駄な金が掛かってしまうと不思議に思ったことでした。その後、狂牛病が世間を騒がせたときに「トレーサビリティ」が世間に登場して、一般人は「トレーサビリティ」って何と関心を持ったときには、知識を持っていることで少しの優越感を持ったものでした。

そんなこんなで、何とか認定に漕ぎ着け、今ではこの原稿依頼を戴いてから、懐かしくこの規格に対して無知だった頃を走馬灯のように思い出しながら書いています。

今では、試験結果の信頼性向上に際して、下図のような仕組みでヒューマンエラー（読み間違い、書き間違い、転送間違い）を“0”に近づけた、所内 LAN（全ての測定結果は、ボタンを押すことでサーバーに記憶される）で試験を行っている。従って、生データでの記録は、ペーパーレス化となっている。

以上



所内 LAN の仕組み

活動報告

2011年10月以降の主な活動を紹介します。

1. セミナー

(1) 「経営者向けの試験所認定とマネジメントレビュー」

2011年10月6日にJAB会議室にて、12名の参加を得て開催されました。

本セミナーは、会員の要望により昨年から開催しているもので、内容は参加者の参加目的・課題の整理、基礎知識の解説（用語、ISO/IEC 17025規格の意図するところ、経営者の責任と権限、内部監査、マネジメントレビュー、試験所認定制度、国際相互承認）試験所認定に関する世界の動向、認定のメリット、成功事例紹介の後、全員による課題解決討論を行いました。

参加者は、大きく分けて、

これから認定を取得するための研修目的

人事異動で試験所トップに就任したが役割をしっかりと果たしたい

日常トップマネジメント業務を遂行しているが、さらにレベルアップするためと、三通りの方がおられました。

セミナー終了後のアンケート結果では、それぞれ参考になったとの評価を頂きましたが、マネジメントレビューの実施事例の紹介をしてほしい等、貴重なご意見をいただきましたので、次回に反映したいと考えます。

講師は、JABLAS会長の井須 雄一郎でした。

(2) 「マネジメントシステムの作り方」

2011年10月28日にJAB会議室にて、27名の参加を得て開催されました。

本セミナーは、今年初めて開設したもので、内容は、ISO/IEC 17025規格の解釈を中心に、マネジメントシステムのつくり方、マニュアル作成のポイント等、事例を交えた説明でした。

セミナーの途中で活発な質疑応答があり、参加者にとって有意義なセミナーであったと考えます。セミナー終了後のアンケート結果でも、

役に立った。特に認定取得を計画している試験所にとって参考になった。

現在のマニュアルの見直しに参考になった。

今後もこのようなセミナーは必要、二日コースにしても良いのではないかと

等のご意見を頂きました。

講師は、JABLAS幹事の山中 哲也及び木村 博則 でした。

2. 講演会

(1) 「GUMの解説」

2011年10月18日に大阪国際会議場 会議室で12名の参加を得て開催しました。

講師は、昨年度に引き続いて 独立行政法人 産業技術総合研究所 計測標準研究部門の城野 克広 様でした。内容は9/5に東京で実施したのと同じもので、一般にはやや難解な内容を、図解を交えて懇切丁寧にかつ明瞭に解説していただき、参加者のご期待に

応えたものと考えます。

不確かさのバイブルである GUM に関する講演会については、来年度も実施する計画ですので、是非ご期待ください。

(2) 「易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方」

2011年11月10日にJAB会議室で42名の参加を得て開催しました。内容としては、ISO/IEC 17025 及び ISO 15189 に対応する不確かさ入門講演会として、測定の不確かさとトレーサビリティ、トップダウン方式による不確かさの求め方、不確かさ概説、誤差と不確かさ等について解説と一部演習がありました。

セミナー終了後のアンケート結果では、

役に立った。

やや難しかった。もっと易しく解説してくれる講座があればよい。

今後も開催してほしい。

等のご意見を頂きました。

なお、試験所認定取得を準備中あるいは検討中と答えられた方が、受講者の約25%もおられ、入門コースの開設を希望される方が多いことを実感しました。

JABLASとしては、これらのご意見を踏まえて、現在実施している各種不確かさセミナーの内容、受講対象、レベル等を、より明確にお知らせする必要があると考え、来年度からのセミナーご案内に反映させていただきます。

講師は、JABLAS代表幹事の青柳 邁 でした。

(3) 「易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方」

2011年11月30日に大阪国際会議場 会議室で34名の参加を得て開催しました。

内容及び講師とも、11月10日に東京で実施したものと、まったく同一のものでした。

3. JABLAS 第2回勉強会

2011年11月28日にJAB会議室で11名の参加を得て開催しました。今回のテーマは、第1回勉強会で参加者から要望の高かった「試験所の経営を高める人材戦略」でした。

主な内容は、

事業ビジョンと人材ビジョン（リーダーとリーダーシップ等）

人材マネジメント（人材マネジメント事例、モチベーション等）

試験所経営における人材マネジメントの課題と方策方向（議論）

で、参加者全員から活発な意見や質問が出され、有意義な勉強会であったと考えます。

講師は、前回に引き続き、経営コンサルタントの宮川 雅明 氏でした。

前回と同様に、セミナーの概要を取りまとめた資料を作成しましたので、ご希望の方は事務局までお申込みください。

なお、次回は、2012年4月17日に「マーケティングから試験所経営を考える」(仮)をテーマに実施する予定です。ご期待ください。

4. 広報活動

先にJABLAS NEWS 第十号でお知らせした、主婦連合会と共同で行った「食品に関する安全意識調査」の結果を、ステークホルダーに知ってもらい、試験所の役割の重要性を理解し

てもらう活動を開始しました。

- 1) 消費者庁記者クラブで、主婦連合会と共同発表(2011年10月5日実施)
- 2) 食品関連業界紙へ説明(2011年11月2日実施)
2011年11月9日付 日本食糧新聞3面トップ記事として掲載された。
- 3) JAB関係者への説明(2011年11月15日実施)
- 4) 食品小売り・流通関係企業への説明会(2012年2月29日予定)
- 5) 食品関連企業への説明会(2012年春予定)

今後とも幅広く広報活動を継続して行く所存です。

今後の予定

1. 校正専門部会 懇談会

開催日 2012年1月31日(火)

開催場所 JAB 会議室

今年度、新しく校正専門部会を立ち上げます。その事前協議のための懇談会として開催するものです。多数のご参加をお待ちしております。

2. 「第十回ラボラトリーのための内部監査員養成講座」セミナー

開催日 2012年2月3日(金)、4日(土)

開催場所 JAB 会議室

本講座は、毎回好評で多数の参加者があります。今年度はこれまでに3回開催してきましたが、今回が本年度最後のセミナーとなります。参加ご希望の方はお早めに申込みいただくようお勧めします。

3. 化学専門部会

開催日 2012年2月22日(水)

開催場所 JAB 会議室

4. 「微生物試験 バリデーションと不確かさの求め方」セミナー

開催日 2012年2月24日(金)

開催場所 JAB 会議室

5. 化学専門部会 第三回試験所見学会

開催日 2012年3月上旬または中旬

開催場所 財団法人 日本冷凍食品検査協会 横浜試験センター(予定)

詳細は後日メール及びウェブサイトにてお知らせいたします。

6. JABLAS 第3回勉強会

開催日 2012年4月17日(火)

開催場所 JAB 会議室

7. 「化学試験・臨床検査の不確かさの求め方とその活用」セミナー

開催日 2012年3月22日(木)

開催場所 JAB 会議室

8. 2012年度セミナー等の実施予定

少し早目ですが、2012年度のセミナー等の開催予定をお知らせいたします。
貴機関の職員教育訓練やご自身のスキルアップのため、年間計画の中に取り入れていただくようご検討ください。後日 JABLAS ウェブサイトで公表させていただきます。

なお、表中 **NEW!** と表示のある下記セミナーは、2012年度に新たに開設するものです。

- ・ トップダウン方式（分散分析）を利用した不確かさの求め方
- ・ 第一回検査機関（ISO/IEC 17020）の為の内部監査員養成セミナー
- ・ 宮川塾（第一回～第五回）

宮川塾は、これまで実施してきた JABLAS 勉強会をさらに深化・体系化させたものです。その他、セミナー開催に関する不明な点やご希望等がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。また、現地出張セミナーも承っておりますので、お気軽にご一報くださるようお願いしております。

平成24年度(2012年度)セミナー・塾 予定表

名称	開催地区(会場)	平成24年度(2012年度)													
		平成24年(2012年)										平成25年(2013年)			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
不確かさセミナー(JAB/JABLAS共催)															
不確かさにおける統計的手法について・基礎から応用まで(一日)(大阪)	大阪					3(火)									
不確かさにおける統計的手法について・基礎から応用まで(一日)(東京)	東京(きゅ)						1(水)								
GUMの解説セミナー(一日)(大阪)	大阪								19(水)						
GUMの解説セミナー(一日)(東京)	東京(JAB)								26(水)						

不確かさセミナー(JABLAS主催)

易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方(一日)(東京)	東京(JAB)											8(木)			
易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方(一日)(大阪)	大阪											27(火)			
トップダウン方式(分散分析)を利用した不確かさ求め方(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)							7(火)							
微生物試験 パリテーションと不確かさの求め方セミナー(一日)(東京)	東京(JAB)					24(火)									

内部監査員養成セミナー(JABLAS主催)

第11回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京(JAB)					7(木) 8(金)									
第12回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京(JAB)										4(木) 5(金)				
第13回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー(二日)(大阪)	大阪										11(木) 12(金)				
第14回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー(二日)(東京)	東京(JAB)													7(木) 8(金)	
第1回検査機関(ISO/IEC 17020)の為の内部監査員養成セミナー(二日)(東京) NEW!	東京(JAB)										16(火) 17(水)				

経営者・管理職向けセミナー・塾

第1回宮川塾／わくわくするようなビジョン創りとリーダーシップ(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)					24(木)									
第2回宮川塾／戦略とマーケティングの原理原則と実践入門(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)						14(木)								
第3回宮川塾／良く分かる財務・損益管理(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)							10(火)							
第4回宮川塾／ビジネス・リーダーを創る(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)								22(水)						
第5回宮川塾／発表会・ディスカッション(一日)(東京) NEW!	東京(JAB)									11(火)					
第3回 経営者向けの試験所認定とマネジメントレビューセミナー(一日)(東京)	東京(JAB)									18(火)					

マネジメントシステムセミナー

マネジメントシステムの作り方/ISO/IEC 17025(一日)(東京)													20(火)		
--------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	--	--

事務局からのお願い

三カ月毎にお届けしております JABLAS NEWS は、2009 年 9 月 17 日に創刊号を発行以来、今回で早第十一号を発行する運びとなりました。この間、会員の皆様にはご愛読をいただき、心より御礼申し上げます。

事務局としましては、この機会に、JABLAS NEWS の内容をより充実させるため、皆様から要望、アイデア等を頂きたいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことにいたしました。

本誌にアンケート調査用紙を同封いたしましたので、折り返し FAX にてご返信ください。また、別途メールでもアンケート調査依頼をさせていただきますので、このメールへの返信でも結構です。

ご多忙とは存じますが、何卒主旨をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。なお、このアンケート結果は、2012 年 4 月 1 日発行予定の第十二号にてご報告させていただきます。

以上

編集兼発行人 井須 雄一郎 **発行所** J A B 試験所協議会

住所：〒141-0022 東京都品川区東五反田 1 丁目 22 1 五反田 AN ビル 3F 公益財団法人日本適合性認定協会内

電話：03 5798 8820 **FAX**：03 5798 8821 **E-MAIL**：info@jablas.jp **URL**：http://jablas.jp

無断で複製、転載等を禁じます。